

**飛躍への挑戦！**  
**高知県産業振興計画**

変わろう・変えよう・産業と暮らし

## 第3期高知県産業振興計画 **ver. 2**

～ みんなが主役 高知の元気発進プロジェクト ～

《地域アクションプラン》(案)

高知市地域抜粋版

平成29年2月

高 知 県



### 3 高知市地域

#### (1) 地域の産業を取り巻く状況

高知市地域は「平成の大合併」により、都市部を中心とした県域の中核機能に加え、田園地域と中山間地域を併せ持つ都市となりました。

総人口は、平成27年の国勢調査では337,190人で、県全体の4割余りを占めています。65歳以上の高齢者の比率は、県平均を下回っているものの、他地域と同様に高齢化が進行しています。

総生産額は県全体の5割近くを占めていますが、部門別の構成比は、第3次産業が約9割という突出した形になっています。

農業については、平野部では、水稻、野菜、花き等の早出しを主体とする営農形態となっています。北部の中山間地域では、地理的な特性を活かして、ユズや四方竹の生産・加工、有機による野菜づくりなどが行われ、大消費地に近い地の利を活かして、直販所や街路市等を通じた地産地消の取組が進められています。また、ショウガ等新たな加工に向けた検討や商品化の取組も行われています。

南部の里山地域と中山間地域では酪農が行われており、出荷される牛乳の大半は県内で加工・販売・消費されています。また、酪農関係者によるスイーツの製造販売の取組も行われています。

林業については、総面積の約60%を占める森林の約半分が杉やヒノキといった人工林であり、林道、作業道等の基盤整備や森林組合を中心とした間伐などが進められていますが、木材価格の低迷をはじめ、担い手の高齢化などによる後継者不足等の課題があります。その一方で、国際的な木材の需給の状況や、地球温暖化の防止等に対する森林への関心の高さなどを背景に、国産材を見直す動きが見られます。

水産業においては、魚価の低迷や漁場環境の悪化、燃油・資材の高騰、担い手の高齢化などにより、漁業者の経営環境が厳しさを増しています。

商業については、特に中心商店街や近隣商店街では、郊外型大型商業施設の増加や商店街の核店舗の減少、消費者の購買方法の多様化などにより、空き店舗の増加や歩行者通行量の減少など厳しい状況が続いていましたが、近年のひろめ市場の活況に加え、新たな複合施設や高知城歴史博物館がオープンするなど状況が徐々に好転しており、新図書館「オーテピア」の整備なども進んでいます。

製造業は、機械、食料品、鉄鋼や製紙業等を中心に操業が行われ、高い技術力によって全国展開している企業もありますが、全般的には伸び悩みの傾向にあります。

観光面では、「高知城」や「はりまや橋」、「桂浜」などの名所、「よさこい祭り」をはじめとする様々なイベントのほか、「坂本龍馬」「長宗我部元親」などの「歴史」や「食」など、本県を代表するような観光資源を多く有しています。また、効果的な情報発信や周辺地域との広域での連携に加え、龍馬ゆかりの地を巡るまち歩きや市場見学、写経などの体験型・着地型観光の取組も進んでいます。大型外国客船の寄港も年々増加しており、外国人観光客に対する受け入れ態勢の整備にも取り組んでいます。

## (2) 地域アクションプランの概要

高知市地域では、県都・中核市としての都市機能や役割を十分に果たしつつ、主要農産物の振興に加え、それらを活かした6次産業化の促進や中心市街地の活性化、歴史・文化・自然・食を体感できる観光振興などの取組を進めていきます。

分野別にみると、農業分野では、県内一の生産を誇るキュウリや日本一の産地であるグロリオサをはじめ、針木産新高梨の更なるブランド化に向けた活動などを独立した項目として位置づけ、それぞれの各事業主体が、より強力に進めていきます。中山間地域では、基幹品目であるユズ・四方竹の振興に加え、(一財)夢産地とさやま開発公社を中心に展開する「まるごと有機プロジェクト」の推進などにより、山の恵みを所得につなげる地産外商の取組を一層促進します。また、JA高知市が行う「食」の提供による地域農産物の消費拡大の取組など、これまで以上に消費者を意識した展開を図っていきます。さらに、伝統作物の生産拡大と加工品開発により、生産者と消費者の交流拡大や地域観光への活用を図ります。

畜産分野では、生乳加工品の製造・販売による新たな酪農経営モデルの確立に向けて、引き続き関係者が連携して取り組めます。

林業分野では、「森の工場」を核として素材生産量の増大を目指すとともに、県産材を使った木造住宅の普及促進活動など、森林資源の有効活用を図っていくとともに、イタドリの加工・外商に取り組めます。

商工業分野では、春野地区の農産物加工品の開発・販売拡大の取組や民間活力を活かした6次産業化の支援体制づくり、また、防災食の製造などの食品加工の取組を一層推進していきます。さらに、新たな分野への製品展開を進めている竹製品の製造を土佐山地区の地域産業として発展させるとともに、県内中山間地域の産業創出につなげるよう関係機関等と連携して取り組めます。

また、高知市中心市街地活性化基本計画に位置づけられた取組を各事業主体が具体的に推進することにより、県都中心部の活性化を図っていきます。

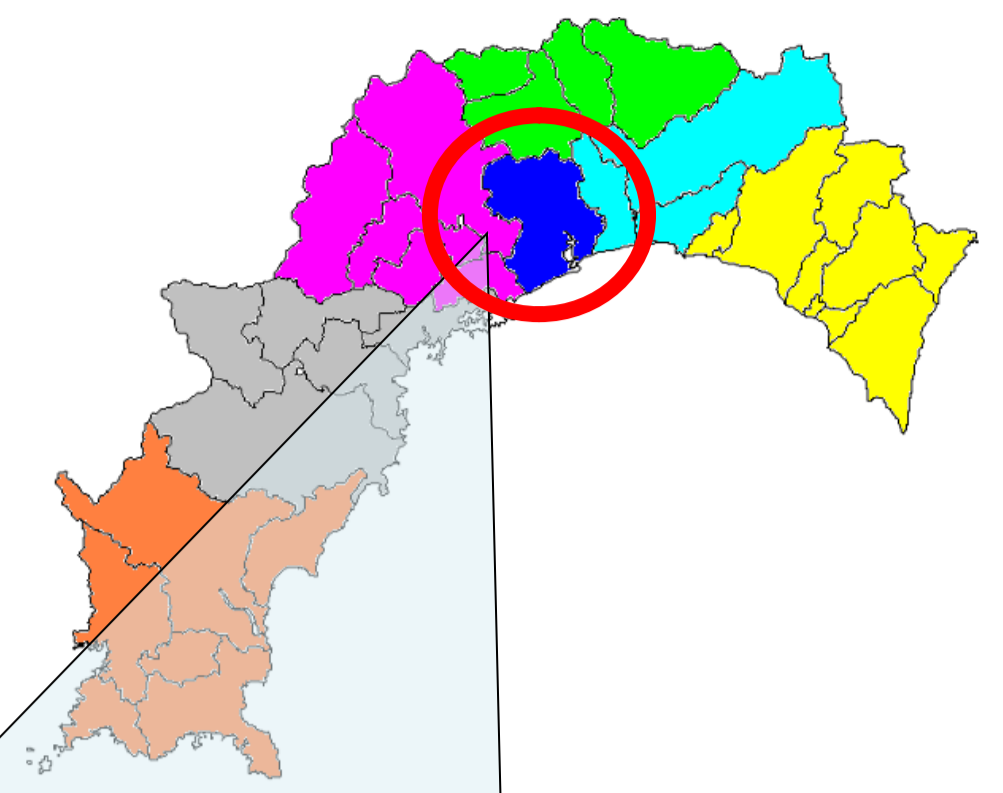
観光分野では、市内のみならず近隣地域等で人気のある観光施設や体験プログラムとの連携を進め、多様で魅力ある広域観光エリアの形成を図ります。また、「よさこい祭り」や、坂本龍馬をはじめとする「土佐の偉人」、観光客に評価の高い「食」などをテーマとしたまち歩きや効果的なイベントの展開、情報発信の仕組みづくり、県民性を活かして外国人観光客の受入態勢を充実させる取組などを民間団体等と連携して進め、土佐観光の拠点としての役割を果たしていきます。

(3) 主要な指標及び目標

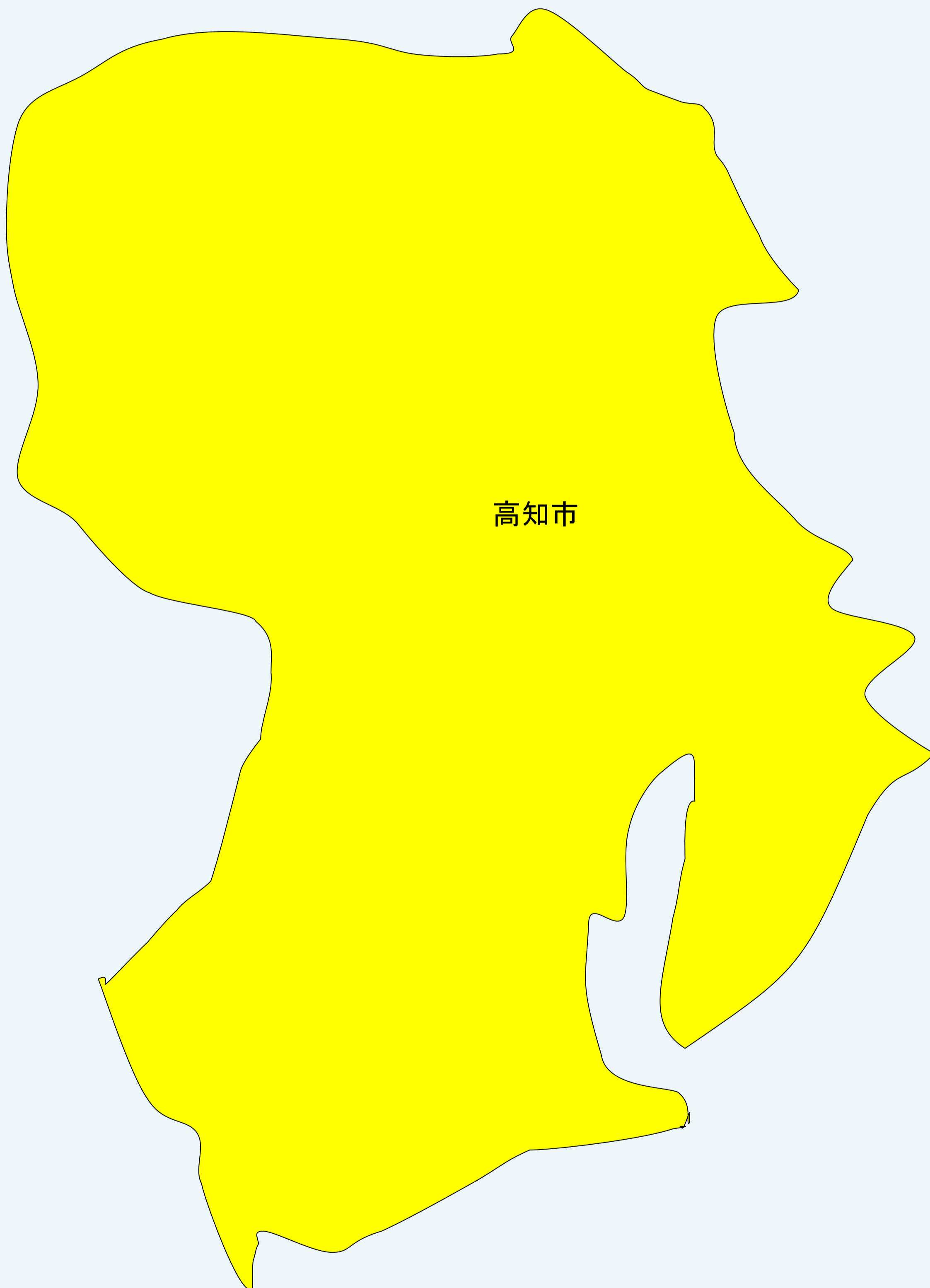
項 目	実 績	目 標
主要農産物の販売額 (グロリオサ、新ショウガ等6品目の合計)	H26 : 21.1 億円	H31 : 21.6 億円
森の工場における素材生産量	H26 : 2,660 m <sup>3</sup>	H31 : 4,200 m <sup>3</sup>
農産物加工品の販売額 (一財) 夢産地とさやま開発公社、 (有) スタジオ・オカムラの合計)	H26 : 1.48 億円	H31 : 3.22 億円
商店街等の通行量 (平日・休日合計)	H26 : 95 千人/2 日・ 14 地点	H30 : 105 千人/2 日・ 14 地点
宿泊者数	H26 : 93.4 万人	H31 : 127.3 万人

(4) 具体的な取組

No.	項目
1	キュウリの生産販売対策の強化による産地振興
2	グロリオサの生産販売対策の強化による産地振興
3	生産と販売促進対策の強化による消費地に選ばれるユリ産地の振興
4	イチゴの生産販売対策の強化による産地振興
5	ナシ産地の生産安定及びブランド強化
6	時代のニーズに対応できる米産地の振興
7	新ショウガの生産振興
8	ユズを核とした中山間農業の活性化
9	四方竹のブランド化による中山間地域の振興
10	「まるごと有機プロジェクトの推進」による中山間地域の振興
11	直販店を核とした鏡地域の活性化
12	「食」の提供による地域農産物の消費拡大
13	伝統作物の復活と関連産業の振興
14	異業種間のコラボレーションによる新たな商品・サービスの創出
15	生乳加工品の製造・販売による新しい酪農経営モデルの創出
16	森の工場の拡大による原木の増産
17	県産材を使った安心・安全な木造住宅の普及促進
18	イタドリの外産推進による中山間地域の振興
19	春野地区の農産物(トマト等)の付加価値向上
20	竹資源の活用による中山間地域の新たな産業の創出
21	防災食の開発・製造・販売
22	中心市街地における商業、観光等の基盤強化による都市機能の増進及び経済活力の向上
23	日曜市をはじめとする土佐の街路市の活性化
24	近隣地域等との連携による滞在型・体験型観光の推進
25	本家よさこいのブランド力確立とよさこい文化の継承・発展
26	温泉開発による観光地としての魅力の向上
27	浦戸湾を活用した観光の振興
28	土佐の偉人を活かした観光の振興
29	食による観光の推進
30	県民性を活かした外国人観光客受入態勢の充実



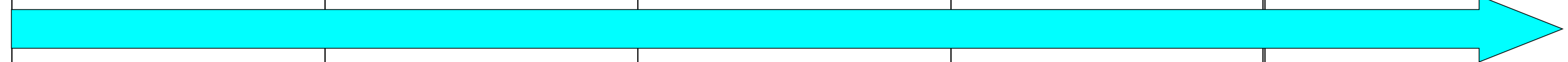
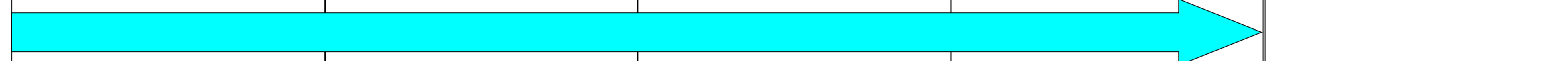
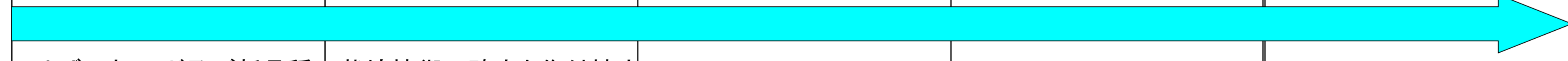
## 【高知市地域】



1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、  
21、22、23、24、25、26、27、28、29、30





第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<b>産地の維持拡大対策</b> 新規参入者受入の実施とシステムの改善 新規就農者の確保・育成 担い手農家の規模拡大						出荷量 (H23園芸年度: 10,500t) (H27園芸年度: 10,174t)	H31園芸年度: 12,700t
<b>生産の収量・品質向上対策</b> 有利品種の普及 適正栽培管理の実践(現地検討会、勉強会) 環境制御技術の確立と生産性向上							
<b>IPM技術の確立・普及</b> 天敵利用技術の確立・普及 天敵と病害防除を組み合わせたIPM技術の実証 天敵と病害防除を組み合わせたIPM技術の普及							
<b>出荷場の機能強化・GAPの推進</b> 選果ラインの高度化 選果データの有効利用の検討 出荷場および生産農家でのPDCAの定着							
<b>流通、販売、消費拡大対策</b> 市場・消費者との交流会の開催、県内他産地と連携した消費拡大PR							
<b>サザンウインド及び新品種の栽培技術の確立と作付拡大</b> 球根の増殖と周年出荷できる計画的作付けの検討・実施 品種特性に応じた適正な栽培管理の検討と導入						販売額 (H23園芸年度:7.4億 円) (H27園芸年度:6.4億 円) 秀品率 (H27園芸年度:52%) サザンウインド生産割 合 (H27園芸年度:76%)	H31園芸年度:6.5 億円 H31園芸年度: 54% H31園芸年度: 80%
<b>流通・販売対策</b> 商談会・市場展示会を活用した販路拡大 市場との販売検討会・市場調査の実施 輸出拡大に向けての連携・調整 東京オリンピックでのビクトリーフラワーの提案と高温期の安定出荷にむけた取組							

## 【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
3 生産と販売促進対策の強化による消費地に選ばれるユリ産地の振興	消費地ニーズに基づいた生産出荷対策を強化し、有利販売による農家所得の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JA高知市</li> <li>・JA高知市長浜支所園芸部花卉部会</li> <li>・JA高知春野</li> <li>・JA高知春野花卉部会球根部会</li> </ul>	<p>アクションプランの取組開始：H21</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリング事業の実施(H21～25)</li> <li>・市場との販売検討会の開催(H21～28)</li> <li>・産振補助金(ステップアップ事業)を活用した販促・市場調査等の実施(H24)</li> <li>・共販体制の整備・出荷によるブランド力向上の取組(春野：H26～28)</li> <li>・関西市場仲卸でのPR活動(春野：H26)</li> <li>・摘蕾技術向上のための実証ほの設置、勉強会、現地検討会の実施(高知：H26～27)</li> <li>・商談会の参加による需要調査と、販路拡大の取組(H25～28)</li> <li>・週1回の目慣らし会の実施による品質の安定に向けた取組(春野：H26～28)</li> <li>・産地提案型新規就農者の確保に向けた取組と、指導農業士3人の確保(長浜：H27～28)</li> <li>◆高品質化等の対策が進んだ。</li> <li>◆PR活動で収集した情報・ニーズをもとに共販体制が確立された。(春野)</li> <li>◆適正な土壌消毒の徹底や定期的な目慣らし会により、安定した品質が維持できている。</li> <li>◆消費地での市場・花屋の情報収集により、需要に合った生産出荷体制ができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産地ブランドをPRする流通・販売対策の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆消費地の情報収集</li> <li>◆新たな販売戦略の検討と実践</li> <li>◆市場ニーズに応じた生産出荷対策</li> </ul>
4 イチゴの生産販売対策の強化による産地振興	生産安定対策(夏場の育苗、冬期の収量や品質向上など)や販売戦略の実践による介良イチゴの知名度アップと農家所得の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JA高知市</li> <li>・JA高知市介良支所苺部会</li> </ul>	<p>アクションプランの取組開始：H21</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・炭そ病対策(H21～28)</li> <li>・品種の統一(H21～23)と出荷規格の見直し(H23,27,28)</li> <li>・栽培マニュアルの作成(H22,26)</li> <li>・消費拡大PRの実践(H22～28)</li> <li>・出荷形態の検討(業務用イチゴ)(H25～26)</li> <li>・酸素水(アリガル)や炭酸ガス施用による高収量技術の確立に向けた試験の実施(H28)</li> <li>◆秀品率の高い品種に転換し、高品質化と調整作業の効率化が進んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産安定対策(健全苗の確保、高収量、高品質化)</li> <li>・介良ブランドをPRする流通・販売対策の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生産安定対策</li> <li>◆流通・販売対策</li> </ul>

第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
消費地の情報収集				→	販売額 (H23園芸年度:4.2億円) (H27園芸年度:3.8億円)	H31園芸年度:3.8億円
商談会・市場展示会を活用した消費動向調査						
市場調査による情報収集				→	摘蕾実施農家率 (H27園芸年度:50%)	H31園芸年度:67%
産地戦略の見直し、実践						
新たな販売戦略の検討と実践				→	10aあたり収量 (H27園芸年度:3.3t)	H31園芸年度:4.0t
産地戦略の見直し、実践						
市場ニーズに応じた生産出荷対策				→	販売額 (H23園芸年度:1.09億円) (H27園芸年度:0.72億円)	H31園芸年度:1億円
需要に応じた品種の選定と絞り込み・出荷量の調整(植え付け検討会)、摘蕾処理技術の普及						
生産安定対策				→	HPの充実など「介良イチゴ」をPRする取組の強化	
健全苗の確保・育苗管理の徹底(高温対策、病害虫(特に炭そ病)対策、肥培管理など)						
栽培管理技術の高位平準化、環境制御技術等の検討・普及による収量・品質向上						
流通・販売対策				→		
HPの充実など「介良イチゴ」をPRする取組の強化						



第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
産地計画の見直し及び実践					生産量 (H23年産:500t) (H27年産:320t)	H31年産:400t
産地計画の見直し	実践(品種の選定、担い手の確保等)					
地球温暖化に対応した栽培技術の確立						
高温対策、干ばつ対策等の実証及び普及						
産地ブランドの強化						
共同出荷体制の維持強化						



第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
白未熟粒軽減対策				→	主要品種1等米比率 (H27年産:8.4%)	4ヶ年平均12%
コシヒカリ及び極早生品種の白未熟粒対策(品種、肥料、栽植密度等)の実証、対策技術の実践					非主食用米生産面積 (H27年産:98ha)	H31年産:190ha
特定用途需要米の検討				→	酒米生産面積 (H27年産:39.8ha)	H31年産:43ha
特定用途米(品種、肥料、栽植密度等)の実証、実証技術の実践						
実需者へのPR、ニーズのリサーチ				→		
非主食用米生産の取組						
「経営所得安定対策」の導入(研修会等による推進)		次期対策の導入(研修会等による推進)		→		
乾燥受け込み体制の確立	次期対策の分析と推進方向の策定					
酒米安定生産技術(品種、肥料、栽植密度等)の実証、実証技術の実践				→		
大規模経営体等の支援						
組織づくり・受託運営の学習(研修会、先進地視察等の開催)				→		
農地集積の推進(研修会等の開催)						
基盤整備モデル事業による農地整備検討				→		
基盤整備モデル事業概要検討、基盤整備モデルほ場での生産性改善実証						
モデルほ場の実績分析、基盤整備事業導入の検討						

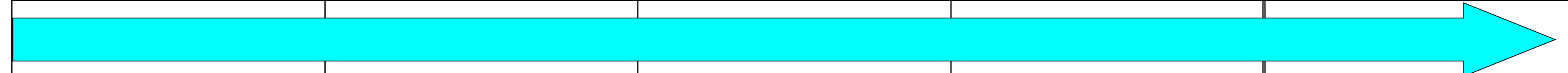
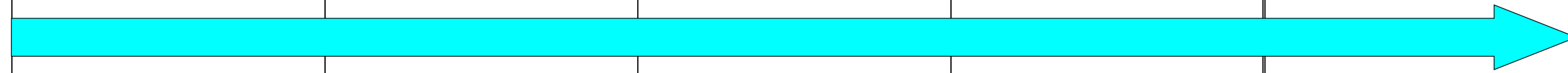
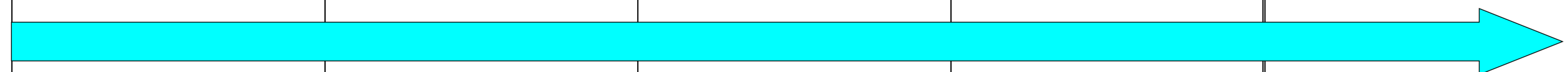




第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
産地戦略の策定と実践				→	販売額 (H23園芸年度:9.23億円) (H27園芸年度:7.91億円)	H31園芸年度:8億円
計画的作付け、産地目標の策定・見直し						
品質向上対策				→		
・適正栽培管理の実践・病害虫対策の徹底(現地検討会、勉強会、目慣らし会) ・優良種塊茎の確保(露地栽培管理技術向上)						
ファインバブル等新技術の実証		ファインバブル等新技術の確立と普及				
出荷規則の徹底・見直し(市場事故対策)				→		
販売、消費拡大PR						
レシピ作成、試食販売によるPR						
生産の安定と高品質化対策				→	販売額 (H19:1.6億円) (H22:1.9億円) (H26:0.8億円)	H31:1.9億円
青果・貯蔵・加工用途果実の生産技術向上						
担い手の育成と生産基盤の強化				→	未活用(廃棄)果皮 (H24-26平均:111t)	H31:0t
未活用果皮の利用と搾汁残渣対策						
搾汁残渣加工施設の整備		搾汁残渣加工施設による未活用果皮の新たな活用		→		
産地計画の見直し及び実践						
産地計画の見直し		実践(優良系統による新植の推進、省力栽培技術の確立等)		→		

【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
9 四方竹のブランド化による中山間地域の振興	全国的に希少性の高い四方竹を高知県のブランド品として育て、中山間地域の産業として振興するため、加工施設の整備等により、生産と地域加工の促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JA高知市</li> <li>・JA高知市特産部会</li> <li>(七ッ淵筍加工組合、土佐山四方竹生産組合、鏡特産部会)</li> <li>・(一財)夢産地とさやま開発公社</li> </ul>	<p>アクションプランの取組開始：H21</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製氷機の導入(H22)</li> <li>・冷水機の導入(H24)</li> <li>・販路開拓(H22～28)</li> <li>・高知市四方竹振興計画の策定(H25)</li> <li>・放棄園及び園地マップの個票整理(H25)</li> <li>・四方竹加工施設の整備(H25～26)</li> <li>・選別作業の機械化に関する検討(H25～27)</li> <li>・自動選別機の導入および導入後の改善(H28)</li> </ul> <p>◆商品性のアップを目指し、消費期限の延長や調理済み加工品の開発に取り組み、高級量販店への真空パック商品の販売が開始されるなど、販路拡大の動きも具体化している。</p> <p>◆加工施設の整備等により作業能力が向上し、出荷量が増加。 販売額 H22：39,820千円→H26：41,530千円→ H28：57,326千円(見込)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加工能力の増強および適正化</li> <li>・特産品としての魅力アップ</li> <li>・中山間地域農業の6次産業化モデルへの挑戦</li> <li>・鳥獣害(イノシシ)による被害増</li> <li>・高齢化による園地の管理・収穫作業不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆四方竹の振興方策の実践</li> <li>◆四方竹の生産安定対策</li> <li>◆加工能力の改善と適正化</li> <li>◆四方竹のブランド化戦略の実践</li> </ul>
10 「まるごと有機プロジェクトの推進」による中山間地域の振興	(一財)夢産地とさやま開発公社を中心として、有機・無農薬野菜などの生産と販売および加工品の開発・販売の取組を通じて農家所得の向上と地域の活性化を図り、土佐山百年構想を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(一財)夢産地とさやま開発公社 等</li> </ul>	<p>アクションプランの取組開始：H21</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有機農産物の栽培技術の確立、普及(H21～27)</li> <li>・加工品の開発、販売(H21～27)</li> <li>・生産農家からの集荷販売(H21～27)</li> <li>・土づくりセンター増強整備(H24)</li> <li>・堆肥機能性向上のための研究施設に選定され、長期研究に係る調査開始(H26)</li> <li>・四方竹加工工場稼働(H26)</li> <li>・6次産業化(2期計画)検討(H26～27)</li> <li>・地域農産物を活用したスイーツ等の加工品を製造・販売するための施設及び店舗の整備(H28)</li> </ul> <p>◆首都圏をはじめとした有機農業分野での取引業者の拡大や、土づくりセンターの増強によるたい肥の製造・販売により、農家所得の向上へつながりつつある。</p> <p>◆四方竹加工工場が稼働し、公社が加工作業を行うことで、生産・加工の分業化が図られ、生産の安定化につながった。また、食品衛生基準の向上、一次加工作業の効率化が図られた。 販売額 H22：84,000千円→H26：103,000千円</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家及び公社の所得の向上</li> <li>・新たな加工品の開発と新加工場の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆有機農産物の栽培技術の確立と普及</li> <li>◆有機農産物等の流通対策</li> <li>◆加工施設の機能強化、加工品の開発と販路拡大</li> </ul>

第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
四方竹の振興方策の実践 中長期振興方針・計画の実践及び見直し					販売額 (H19: 33,600千円) (H22: 39,820千円) (H27: 37,900千円)	40,000千円
四方竹の生産安定対策 ・鳥獣害対策の推進 ・新規栽培者の確保 ・集荷等により高齢農家の出荷を支援						
加工能力の改善と適正化 ・選別作業の機械化(選別機の導入) ・一次加工施設の作業効率の見直し、加工能力の向上・整備 ・鮮度保持対策の改善・実践						
四方竹のブランド化戦略の実践 都市圏での四方竹の認知度向上、他産地とも連携した販路開拓・拡大					販売額 (H22: 0.84億円) (H26: 1.03億円)	2.02億円
有機農産物の栽培技術の確立と普及 有機農産物の栽培技術の確立、改善および地域への普及 有機農産物の生産拡大						
有機農産物等の流通対策 公社 販売計画の見直し (自社分、委託分、加工分) 有機農産物等の販路開拓・拡大 効率的な集荷・納入方法等の確立						
加工施設の機能強化、加工品の開発と販路拡大 加工・集出荷施設整備 ・新たな加工品の開発 ・ターゲットの絞り込みとターゲットに合った販売方法の確立、販路の開拓・拡大						

【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
11 直販店を核とした鏡地域の活性化	需給ギャップの解消や新規顧客開拓など、消費者ニーズに基づく活力ある直販所づくりと農家所得の向上を図る。	・鏡村直販店組合	<p>アクションプランの取組開始：H21</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産履歴活動の推進(H22～25)</li> <li>・需給ギャップの検証(H23)</li> <li>・顧客ニーズ把握のためのアンケートや需給改善の分析などを実施(H24～25)</li> <li>・夏場の品薄対策、葉物野菜試験栽培の実施(H25～27)</li> <li>・需給ギャップ解消品目の試験栽培の実施(H28～)</li> <li>・午後の集出荷の試験実施(H28～)</li> <li>・他産地生産者の出荷の試験実施(H28～)</li> <li>・料理教室や販促イベントの実施(H25～28)</li> <li>・野菜の乾燥や粉末等試作品づくり(H26～27)</li> <li>・産振アドバイザーの活用による研修会の実施(H26～28)</li> </ul> <p>◆生産履歴記載率100%となり「安全・安心」な直販所としてPRできた。顧客ニーズを把握することで、品薄対策が一部進み、また消費者との交流イベントも実施し、販促に取り組めた。クレーム対応研修により、ガイドランができ、店舗職員の対応能力が向上した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産農家の高齢化による出荷量および品目の減少と需給ギャップ</li> <li>・消費者ニーズに基づく直販所と生産体制づくり</li> </ul>	<p>◆消費者ニーズに対応した生産対策</p> <p>◆消費者ニーズに対応した販売対策及び販促活動</p> <p>◆新たな事業展開の検討及び実践</p>
12 「食」の提供による地域農産物の消費拡大	地域の農産物に加え、加工施設「新農村婦人の家」で加工した商品等を直販所「真心ふあーむらぶ」で販売しており、特に消費者ニーズの高い弁当や総菜の充実に力を入れている。新農村婦人の家を商品開発やバイキングレストランなど地産地消の拠点施設として活用することにより、地域住民の農業への関心を高め、地域農産物の消費拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JA高知市</li> <li>・JA高知市女性部</li> </ul>	<p>アクションプランの取組開始：H24</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産振補助事業を活用した加工施設の改修(H25～26)</li> <li>・産振アドバイザーの活用による直販店舗の改善や新規加工メニューの提案(H24～25)</li> <li>・加工組織なるクラブチーム会を発足、定期的に開催(H26～28)</li> <li>・直販所らぶチーム会を発足、不定期開催(H27～28)</li> <li>・バイキングレストランの開催(H24～28)</li> </ul> <p>◆産振アドバイザーの提案を受けて直販所や加工品の販売強化計画を作成し、店舗の改善、丼物や種類の販売に取り組んだ結果、販売額が伸びた。また、なるクラブチーム会では販売実績を細かく分析しながら製造計画を立て、日曜日にも製造販売を行うなどの取組により販売額はH28目標を達成した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者ニーズに基づく直販所づくりと惣菜等商品レパートリーの拡充</li> </ul>	<p>◆消費者ニーズに対応した販売対策及び販促活動</p> <p>◆加工施設の有効活用による新たな事業展開</p>

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>消費者ニーズに対応した生産対策</p> <p>計画生産など需給ギャップの解消への取組強化</p>					<p>販売額 (H22:1.65億円) (H27:1.62億円)</p>	<p>1.7億円</p>	
<p>消費者ニーズに対応した販売対策及び販促活動</p> <p>・午後の集出荷体制の構築と他産地生産者の出荷の検討 ・料理教室や販促イベントの定例化</p>							
<p>新たな事業展開の検討及び実践</p> <p>新しい惣菜や加工品の販売意向調査、インターネットなどでの販売意向調査</p>							
<p>消費者ニーズに対応した販売対策及び販促活動</p> <p>らぶチーム会で販売強化策を検討・実践</p> <p>バイキングレストランなどのイベント開催による消費者交流の実施</p>					<p>直販所らぶ販売額 (H24: 64,852千円) (H27: 74,609千円)</p>	<p>76,000千円</p>	
<p>加工施設の有効活用による新たな事業展開</p> <p>・なるチーム会で弁当・総菜メニューや加工品の開発 ・イベントメニューの販路開拓</p>					<p>なるクラブ販売額 (H22: 15,000千円) (H24: 18,990千円) (H27: 25,136千円)</p>	<p>26,000千円</p>	

【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
13 伝統作物の復活と関連産業の振興	「牧野野菜」を中心に、伝統野菜の生産拡大と業務・加工需要を含む販路を開拓することにより、伝統作物のブランド化と生産者の所得向上を目指す。また、伝統的な加工品の復活や新たな加工品を開発する。併せて、生産者と消費者の交流拡大や地域観光への活用を目指す。	・Team Makino	アクションプランの取組開始：H28 ・「Team Makino」組織化(H28) ・新規生産者の開拓と栽培指導(H28) ・伝統作物のPR活動(H28) ・加工品の試作・販売(H28) ◆「伝統作物セミナー・商談会」等を通じて、『牧野野菜』も含めた伝統作物の知名度は上がりつつある。	・生産者および栽培面積の拡大 ・販路に合わせた重点栽培品目の絞り込み ・加工品の試作に見合う機械・器具の不足	◆推進体制の確立 ◆生産拡大 ◆販売拡大 ◆加工品開発
14 異業種間のコラボレーションによる新たな商品・サービスの創出	農林水産事業者と食品加工事業者など分野の異なる事業者の連携による新たな加工商品等開発の取組を促進するとともに、商品のブランド化と販路開拓の支援を行う。	・コラボネットワーク 高知事務局 ・高知市	アクションプランの取組開始：H28 ・「にっぽんの宝物 JAPANグランプリ2016」参加(H28) ・農商工連携セミナー開催(H28) ・「にっぽんの宝物 世界大会」参加(H28) ・第5回にっぽんの宝物コラボグランプリ2016高知大会開催(H28) ◆グランプリ(高知大会)で受賞した商品は、店頭に並ぶ又はメニューに採用されるなどの成果に繋がっている。	・認知度の向上及び情報発信の強化	◆コラボレーションによる商品等開発の参加者の拡大 ◆コラボグランプリの開催による商品等評価のフィードバック ◆開発商品等の販路開拓支援

第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
<p>推進体制の確立</p> <p>Team Makino組織体制の整備</p> <p>Team Makino組織体制の強化</p> <p>推進ビジョンの策定</p> <p>推進ビジョンの改訂</p>					販売額 (H27:0円)	9,000千円
<p>生産拡大</p> <p>連携農家等の拡大</p> <p>連携農家等の拡大と組織化</p> <p>栽培・採種技術等の実証</p> <p>採種技術・種子管理体制の確立</p>					品目数・面積 (H27:0品目・0a)	10品目・150a(累計)
<p>加工品数 (H27:0品目)</p>					加工品数 (H27:0品目)	7品目(累計)
<p>販売拡大</p> <p>ロゴ・商品説明リーフレット作成</p> <p>商品説明リーフレット改訂</p> <p>「牧野野菜図譜」(仮称)の作成</p> <p>商談会等への参加</p> <p>交流活動の試行</p> <p>交流活動・地域観光の試行</p> <p>交流活動・観光の受入体制確立</p>						
<p>加工品開発</p> <p>漬物類</p> <p>菓子類</p>						
<p>コラボレーションによる商品等開発の参加者の拡大</p> <p>農商工連携セミナーの開催</p> <p>ビジネスマッチングと新商品開発の支援</p>					農商工連携セミナー 受講者数 (H27:0事業者) (参考H25:延べ58事業者)	延べ100事業者
<p>コラボグランプリの開催による商品等評価のフィードバック</p> <p>コラボグランプリ(高知大会)の開催</p> <p>「にっぽんの宝物・ジャパン」(全国大会)への参画</p> <p>エントリー商品に対する評価のフィードバック及びブラッシュアップの支援</p>					コラボグランプリ エントリー商品数 (H27:10アイテム)	30アイテム
<p>開発商品等の販路開拓支援</p> <p>グランプリ受賞商品のPR及びブランド化の支援</p> <p>国内外への販路開拓の支援</p>						

## 【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
15 生乳加工品の製造・販売による新しい酪農経営モデルの創出	地場産品を活用した安全・安心な生乳加工品を消費者に提供するとともに、観光地や教育の場として牧場を活用するなど、新しい酪農経営のモデル牧場を創出する。	・高知市酪農農業協同組合	アクションプランの取組開始：H21 ・菓子販売店舗のリニューアルオープン（H22） ・酪農教育ファーム、オープンファームの実施（H21～27） ・龍馬パスポートへの参加、体験観光ツアーの商品化、ピザ焼き体験の提供開始（H26～） ◆乳牛やヤギ、ウサギなどの動物と触れ合いながらスイーツ等が楽しめる牧場直営の菓子店舗として知られるようになっており、酪農教育ファームへの参加児童数も年間で千人を超えるなど教育の場としても活用され、酪農を身近に感じてもらう取組が続いている。	・新規顧客の開拓とリピーターの確保 ・顧客ニーズにあった商品開発	◆地場産品による生乳加工品の製造・販売  ◆観光地及び教育の場としての牧場の活用
16 森の工場の拡大による原木の増産	森の工場を拡大して事業地を確保するとともに、作業システムの改善や現場作業員の技術力の向上を図りながら搬出間伐を中心とする原木の増産に取り組む。	・高知市森林組合	アクションプランの取組開始：H21 ・森林施業に伴う集約化や作業道開設、間伐の実施（H21～28） ◆森の工場内での間伐面積等は増加している。	・森の工場の拡大による事業地の確保 ・原木増産に向けた森林組合の人員体制の確保 ・効率的な作業システムの構築 ・作業員の技術力の向上	◆地元説明会の開催及び補助事業等の情報発信  ◆OJT（緑の雇用）や林業学校等と連携した技術者の確保  ◆作業システムの改善  ◆作業員の技術力の向上



第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>地場産品による生乳加工品の製造・販売</p> <p>生乳加工品の開発・販売、外販の拡大</p>					<p>店舗の販売額 (H20: 0円) (H22: 8,173千円) (H26: 11,330千円)</p>	16,000千円	
<p>観光地及び教育の場としての牧場の活用</p> <p>酪農教育ファーム等のふれあい機能の拡大</p> <p>体験観光ツアー受入の拡大に向けた体験メニュー等の磨き上げ</p>							
<p>地元説明会の開催及び補助事業等の情報発信</p> <p>地元説明会の開催及び広報誌やホームページによる情報発信</p>					<p>森の工場面積 (H22: 1,174ha) (H26: 1,453ha)</p> <p>素材生産量 (H22: 1,707m<sup>3</sup>) (H26: 2,660m<sup>3</sup>)</p>	<p>2,000ha(累計)</p> <p>4,200m<sup>3</sup></p>	
<p>OJT(緑の雇用)や林業学校等と連携した技術者の確保</p> <p>OJT(緑の雇用)や林業学校、林業就業相談会と連携した就労希望者の掘り起こしと確保</p>							
<p>作業システムの改善</p> <p>森林技術センター等と連携した作業システムの改善</p>							
<p>作業員の技術力の向上</p> <p>作業員の技術研修や先進地視察研修の実施</p>							

【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
17 県産材を使った安心・安全な木造住宅の普及促進	県内の森林から生産された木材を使った木造住宅(こうち里山の家)の販売、普及促進に取り組み、木材の地産地消を推進する。	・木の家ネットワーク	アクションプランの取組開始:H21 ・こうち里山の家モデルハウスやもくもくランド等イベントでのPR活動(H23~28) ◆商談件数も徐々に増え、成約実績もあがっている。	・県産材に対する信頼性と里山の家認知度の向上	◆「こうち里山の家(自由設計)」の受注増  ◆低価格の「こうち里山の家(規格住宅)」の普及促進  ◆トレーサビリティの普及促進
18 イタダリの外商推進による中山間地域の振興 《高知市》	出荷量において全国一であり一般的に県内で食されているイタダリを県外に販売拡大していくため、イタダリの加工・外商体制を構築・強化することにより、「高知県産イタダリ」ブランドの確立に取り組む。また、イタダリの生産力を高めるため、イタダリを「栽培」品目と位置付け、耕作放棄地などを活用して栽培面積を拡げるとともに、一次加工を行うことにより、中山間地域における新たな雇用の創出及び拡大を図る。	・高知県食品工業団地事業協同組合 ・連携農家	アクションプランの取組開始:H29		◆外商の推進によるブランド化の促進  ◆鏡地域全域での産地強化
19 春野地区の農産物(トマト等)の付加価値向上	地区内農産物を活用した新たな加工品を開発するとともに、当該加工品の新たな販路を確保し、農家所得の向上及び雇用の創出による地域の活性化を図る。	・(有)スタジオ・オカムラ ・連携農家	アクションプランの取組開始:H22 ・加工場の整備(H23) ・加工品の開発、販路開拓(H22~28) ・OEM・PB商品及び普及価格帯商品の生産を開始(H25~) ◆積極的な販路開拓や新たな商品開発を続け、有名百貨店の商品企画やギフトカタログで連続採用されるなどの成果があがっている。 また、首都圏の高質系スーパーのPB商品の出荷が始まるなど、連携農家の生産品を活用した商品の売上が増加している。 地元柑橘農家オリジナルサイダーの生産を受注するなど、地域の農産物生産者と連携した取組が進んでいる。	・加工品の受注拡大による操業度の安定化 ・新たな加工品の開発 ・加工の原材料となる農産物の安定供給	◆加工品の販路拡大と新たな商品開発  ◆加工に適した野菜等の生産体制の整備

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>「こうち里山の家(自由設計)」の受注増</p> <p>モデルハウスやホームページ等を活用したPR活動</p>					<p>→</p>	<p>こうち里山の家(自由設計)の受注 (H22: 2棟) (H26: 6棟)</p>	<p>20棟</p>
<p>低価格の「こうち里山の家(規格住宅)」の普及促進</p> <p>パンフレットや見学会の開催などによるPR活動</p>							
<p>トレーサビリティの普及促進</p> <p>参加事業体を増やす取組、消費者へのPR</p>							
<p>外商の推進によるブランド化の促進</p> <p>・加工品の開発・販売 ・イタダリのレシピ提案と普及</p> <p>商談会等への出展・PR</p>					<p>→</p>	<p>加工品販売額 (H28: 0円)</p>	<p>15,000千円</p>
<p>鏡地域全域での産地強化</p> <p>耕作放棄地等を活用した栽培面積の拡大</p> <p>地域を巻き込んだ栽培体制の構築</p> <p>鏡地域における加工・保存体制の強化</p> <p>鏡地域をモデルとし、イタダリの産地化を県内各地に展開</p>							
<p>加工品の販路拡大と新たな商品開発</p> <p>・消費者ニーズに応じた新たな商品開発と開発商品のブラッシュアップ ・商談会などへの積極的な参加による新たな販路の開拓 ・購買層に応じたプロモーションによる商品の付加価値化 ・商談、販売計画に基づいた加工品の計画生産</p>							
<p>加工に適した野菜等の生産体制の整備</p> <p>・加工用トマトの低コスト生産と安定供給 ・加工用ベルガモットの露地栽培技術の確立と生産量の拡大 ・加工用野菜のリストアップと栽培技術の確立、連携農家の掘り起こし</p>					<p>→</p>	<p>販売額 (H22: 0円) (H26: 45,110千円)</p>	<p>120,000千円</p>



第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
自動車ハンドル等の竹集成材の製造 自動車ハンドル、竹ブラシなどの竹集成材等の製造				→	売上高 (H23: 31,000千円) (H26: 110,000千円) (H27: 90,000千円)	160,000千円
新規分野への製品展開 新たな製品の開発・製造						
集竹の仕組みの構築 土佐山周辺における集竹の仕組みづくり 県内全域からの集竹の仕組みづくり				→	アイテム数 (H26: 3銘柄)	10銘柄(累計)
地域産品を原材料とする防災食の製造・販売 防災食の製造・販売 見本市等への出展、PR						
産学連携による研究・開発 産学連携による防災食等の研究・開発				→	商店街等の通行量 (平日・休日合計) (H22: 103千人/2日・14地点) (H26: 95千人/2日・14地点)	105千人/2日・14地点[H30]  空き店舗率 (H22: 13.1%) (H23: 14.4%) (H26: 12.6%)
高知市中心市街地活性化基本計画の推進 計画登載51事業の実施 (1)市街地の整備改善のための事業 ・商店街にぎわい創出支援事業 ・花とみどりのまちづくり事業 ・はりまや橋公園沿道都市美形成事業 など (2)都市福利施設を整備する事業 ・新図書館の整備 ・新資料館整備事業 など (3)居住環境の向上のための事業 ・住生活基本計画の推進 ・来街者にやさしい環境づくり など (4)商業の活性化のための事業 ・おもてなし拠点の魅力向上事業 ・おまちの情報発信事業(街なかイベントマネージメント事業含む) ・観光まち歩きガイド事業の推進 ・フラフ等による商店街の演出 ・案内板等の充実や多彩なまち歩きの促進 など 計画の見直しの検討						

## 【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
23 日曜市をはじめとする土佐の街路市の活性化	「高知市街路市活性化構想」に掲げた事業を実施することにより、地元利用者や観光客、出店者等、関係者にとって魅力ある街路市を創造し、来客数、出店者数の増加を図り、地域経済の活性化を目指す。	高知市、出店者4組合ほか関係団体等	アクションプランの取組開始：H28 ・高知まんなか観光物産展(浅草)による日曜市のPR活動実施(H28) ・お客様感謝事業の実施(H28) ・広報用パンフレット等の作成・配布(H28) ・高知大学・高知商業高校の日曜市での活動への協力(H28)	地元客、観光客の増加に向けた取組の強化	◆街路市活性化構想登載41事業の推進
24 近隣地域等との連携による滞在型・体験型観光の推進	周辺市町村等とのネットワークを強化し、情報発信機能の強化やPR活動の充実、着地型観光の周遊ルートづくりを行うことによって、宿泊客の増加を図る。	・(株)城西館等 ・高知市	アクションプランの取組開始：H21 ・仁淀川地域観光協議会へのオブザーバー参加(H22～27) ・高知中央広域観光協議会設立(H25) ・着地型旅行商品追加開発(H22) ・(株)城西館の旅行業2種取得(H24) ・産振補助金(ステップアップ事業)を活用し、城西館の「とさ恋ツアー」の新パンフレット及びホームページ(日本語、英語、中国語)を作成。(H26) ・高知中央エリア(高知市、南国市、香南市、香美市)における体験型観光を紹介する教育旅行ガイドブック「こい・こい・高知」の発行(H26) ◆民間事業者による着地型旅行商品造成の動きが、高知市内だけでなく周辺地域の自然や伝統文化、食材等の地域資源を観光資源に育てることへ繋がり、周辺地域の活性化へ寄与している。 ◆「とさ恋ツアー」 旅行商品数 H23: 32コース→H27: 56コース 利用客数 H23: 1,118人→H27: 3,300人	・近隣地域との連携の強化	◆高知市内や近隣地域の観光資源を活かした体験型観光の推進  ◆広域観光の推進
25 本家よさこいのブランド力確立とよさこい文化の継承・発展	年間を通じてよさこいの魅力を向上させることにより観光客の誘致を図るとともに、「よさこい」発祥の地としての地位の確立・ブランド化に取り組む。	・高知市 ・(公社)高知市観光協会ほか関係団体等	アクションプランの取組開始：H21 ・君が踊る夏のロケ地マップの作成、配布(H22～23) ・地方車用音響設備の整備(H23) ◆2011サッカー「アジア大会」でよさこいが披露され、認知度アップにつながった。 ・高知よさこい情報交流館オープン(H25.4.27) ・高知よさこい情報交流館展示スペース拡張(H27) ◆オープン以降、入館者数は年間予定の2万人を大幅に上回り、累計入館者数20万人を達成(H28.8.19)するなど、県内外観光客に対し本家よさこいの魅力を伝えることができた。 ◆隣接するはりまや橋商店街と連携を図りながら、商店街でのよさこい鳴子踊り披露など、よさこい情報発信を通じた賑わいの創出を図っている。	・年間を通して「よさこい」で集客できるよう事業スキームの見直し	◆年間を通じた「よさこい」の魅力づくり及び「よさこい」のブランド力の確立

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<b>街路市活性化構想登載41事業の推進</b> 登載41事業のうち、着手済みの事業及び実施期間が長期(10年以内着手)のものを除く20事業に順次着手するとともに、着手済み事業の継続と長期計画の実施に向けた検討も並行して進めていく。 (1)地元客対象事業 ・メディア・マスコミへの情報提供の強化 ・パンフレットやFacebook等による情報提供の強化 ・地元客向けリーフレット、ポスターの作成、配布 ・空き小間を活用した取組 ・駐車場マップ・トイレマップ等の情報提供 ・手荷物預かり所の設置 ・ミニ観光案内所の開設 など (2)観光客対象事業 ・観光事業者、外国人への街路市パンフレット等の提供 ・エコバック配布、買い物・宅配支援の研究 ・イベント情報の提供 ・観光宣伝隊など県外PR活動の強化 など (3)出店者対象事業 ・出店者台帳の作成と定期的な出店者訪問活動 ・ボランティアによる出店サポートの充実 ・「経営力アップのヒント」チラシの作成・配布 など (4)景観対象事業 ・街路市図の作成、掲示、配布等 ・空き小間を活用した街路市情報・グルメパネルの設置 など (5)教育・学び対象事業 ・お客様感謝事業の充実 ・高知商業高校等の日曜日での活動への協力 ・高知大学等の日曜日での活動への協力 ・SMS等の活動への協力 など					新規出店数 (H26:14件)	20件/年	
<b>高知市内や近隣地域の観光資源を活かした体験型観光の推進</b> 観光資源の発掘、磨き上げ、商品化					高知市内の宿泊施設の延べ宿泊者数 (H22:約123万人) (H26:約93.4万人)  (参考 H21:約99万人)	127.3万人	
<b>広域観光の推進</b> 高知中央広域観光協議会、(一社)仁淀ブルー観光協議会等とのネットワークの強化によるPR活動及び情報発信機能の充実、周遊ルートづくり							
<b>年間を通じた「よさこい」の魅力づくり及び「よさこい」のブランド力の確立</b> 夏場以外の「よさこい」イベントの充実、年間スケジュール等の効果的な情報発信 高知よさこい情報交流館の運営、PRの推進、近隣商店街との連携 高知よさこい情報交流館のあり方の検討					よさこい祭り来場者数 (H22:1,200千人) (H26:1,200千人)  高知よさこい情報交流館入館者数 (H25.4.27~H27.3.31:119,643人)	1,200千人 (近年の最高来場者数の維持)  400千人(累計)	

## 【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
26 温泉開発による観光地としての魅力の向上	観光目的として非常にニーズが高い温泉を開発することにより、観光客の増加につなげる。	・高知市旅館ホテル協同組合(高知市旅館ホテル温泉協同組合)	アクションプランの取組開始:H21 ・温泉フェアの実施(H22) ・泉源調査の実施(H27) ・新規温泉開発によるビジネスモデルを検討(H23)	・新規温泉開発及びコスト、リスクの再検討	◆温泉の開発と活用に向けた検討
27 浦戸湾を活用した観光の振興	浦戸湾を活用した観光遊覧船の取組等により県内外からの観光客の誘客を図る。	・土佐レジン	アクションプランの取組開始:H21 ・事業存続に向けた方策の検討(H25~26) ・新規事業者の掘り起こし(H26) ・土佐レジンによる運航開始(H27) ◆H28から観光遊覧船は3隻体制で運航開始し、知名度も上がってきている。	・乗船客数の増加のための企画商品づくりとPR ・運航体制の充実	◆周辺地域の団体や事業者と連携した遊覧コースの拡充  ◆観光客に向けたPR活動
28 土佐の偉人を活かした観光の振興	坂本龍馬をはじめとする土佐の偉人ゆかりの地の魅力を高め、県外に情報発信するとともに、歴史、文化、町並みや食などを活用した「まち歩き」を充実させることにより県内外からの観光客の誘客につなげる。	・高知市 ・(公社)高知市観光協会 ・特定非営利活動法人土佐観光ガイドボランティア協会 ・長宗我部連絡協議会等関係団体	アクションプランの取組開始:H21 ・龍馬の生まれたまち記念館のパンフレット作成及び展示物の外国語ガイド開始(H22) ◆土佐っ歩はH23.4月からコースをリニューアルして参加者のニーズに対応したコースとなり、また、高知市郊外を巡る「土佐勤王党コース」及び「長宗我部コース」を設定する等魅力が向上している。  ・瑞山記念館のリニューアル(H22) ・瑞山記念館来館者用のトイレを整備(H25) ・長宗我部関連マップの作成、配布(H22~28) ◆武市半平太旧宅と墓周辺の観光資源の磨き上げを行ったことにより、県内外からの観光客から好評を得ている。また、長宗我部関連イベントも定着しつつある。 ◆龍馬生誕180年という節目を活かした各種記念事業の実施により、県内外より多くの観光客及び龍馬ファンが訪れ、龍馬のふるさと高知のPRを図ることができた。	・まち歩きの更なる魅力向上と団体客の確保 ・土佐の偉人関連施設の磨き上げとルート化	◆「龍馬の生まれたまち歩き～土佐っ歩～」の魅力向上  ◆土佐の偉人関連イベントの充実  ◆歴史を中心とした博覧会への対応  ◆土佐の偉人ゆかりの地の魅力向上



第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
温泉の開発と活用に向けた検討 検討及び検討結果に基づく対応						
周辺地域の団体や事業者と連携した遊覧コースの拡充 御豊瀬漁協等、周辺施設、関係団体と連携した特別企画遊覧の拡充					観光遊覧船の乗船客数 (H26:0人)	2,000人
観光客に向けたPR活動 県内外及び外国人観光客に向けたPR活動の推進						
「龍馬の生まれたまち歩き～土佐っ歩～」の魅力向上 観光客のニーズに対応したコースの見直し・新設					「龍馬の生まれたまち歩き～土佐っ歩～」等への参加人数 (H23.1.1～12.31: 3,790人) (H26.1.1～12.31: 2,695人)	3,800人
土佐の偉人関連イベントの充実 坂本龍馬、長宗我部元親など土佐の偉人関連イベントの実施、情報発信						
歴史を中心とした博覧会への対応 博覧会の準備及び実施に向けた取組						
土佐の偉人ゆかりの地の魅力向上 関連史跡等の磨き上げ、PR活動の推進						

## 【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
29 食による観光の推進	高知市内で開催される「おきやく」や「豊穰祭」などの食イベントを定着・充実させること等により高知の強みである「食」を活かした観光を推進する。	・土佐のおきやく推進会議 ・土佐の豊穰祭実行委員会 ・高知市観光協会ほか関係団体	アクションプランの取組開始：H21 ・新名物料理を市内の飲食店で提供（H21） ・エンジン04など他イベントと合同で開催することで、豊穰祭への集客の向上を狙った。（H25） ・東京都台東区浅草に全国各地の物産販売や観光情報を発信する「まるごとにつぼん」がオープンし、館内に高知市ブースを出店（H27） ◆春には「おきやく」、秋には「豊穰祭」が例年実施されてきており、定着しつつある。また、他のイベントと連携することにより、内容の充実も図られ、来場者数の増加につながった。	・食をテーマにした事業の構築	◆春の「おきやく」や秋の「豊穰祭」など食のイベントの定着・充実  ◆食に関する情報発信
30 県民性を活かした外国人観光客受入態勢の充実	外国人観光客を県民の温かい人柄やおもてなしの心で歓迎するための仕組みづくりを行い、高知の良さを知ってもらうことにより誘客につなげるとともに、県内各地への周遊を促進する。	・高知おせっかい協会	アクションプランの取組開始：H27 ・多言語表記店舗を掲載したマップの作成・配布（H27） ・外国客船乗客に向けた街中ガイドの活動（H27） ・メニュー等英訳相談会及び英語・中国語接客講座の開催（H27） ・個別店舗において実践的な英会話接客講座の開催（H28） ◆大型外国客船寄港の際は高校生・大学生等も加わった街中ガイド活動が行われ、外国人観光客から高い評価を得た。 また、協会の支援により英語のメニューを表記した店舗や外国人観光客との接客・対話について学ぶ事業者が増加した。	・外国人観光客の接客に対応できる店舗及びガイド等を行う県民の拡大  ・協会とその活動の認知度向上  ・取組の維持・拡大に向けた財源の確保	◆小売店舗（飲食店含む）の商品表記の多言語化事業  ◆外国人旅行者受入店舗・協力者の拡大（オセッカイスト認定事業）  ◆外国客船来高時の市街地案内  ◆外国人旅行者のためのKOCHI交流体験メニューの提案・提供  ◆外国人旅行者向け交流・滞在施設の立ち上げ

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
春の「おきゃく」や秋の「豊稔祭」など食のイベントの定着・充実					→		
「おきゃく」や「豊稔祭」などイベントの継続的開催							
食に関する情報発信					→		
県内外へのPR活動の推進							
小売店舗(飲食店含む)の商品表記の多言語化事業					→	商品表記の多言語化店舗数 (H26:0店舗)	100店舗(累計)
商品表記の英訳支援							
多言語表記店舗を掲載したおせっかいマップの作成・配布・Web発信							
外国人旅行者受入店舗・協力者の拡大(オセッカイスト認定事業)					→	オセッカイストの認定者数 (H26:0人)	300人(累計)
オセッカイストの認定・拡大							
小売店舗(飲食店含む)の外国語による接客・コミュニケーションの支援							
外国人客船来高時の市街地案内					→		
街中を訪れる乗客・乗務員に向けた目的地案内、見どころ・お勧め店舗等紹介、写真撮影等のおせっかい活動							
外国人旅行者のためのKOCHI交流体験メニューの提案・提供					→		
ツアーメニューの開発・支援							
体験ツアーの情報発信							
外国人旅行者向け交流・滞在施設の立ち上げ					→		
おせっかいカフェ、おせっかいゲストハウスの立ち上げに向けた検討			おせっかいカフェ、おせっかいゲストハウスの開設・運営				